

相模国一之宮寒川神社と

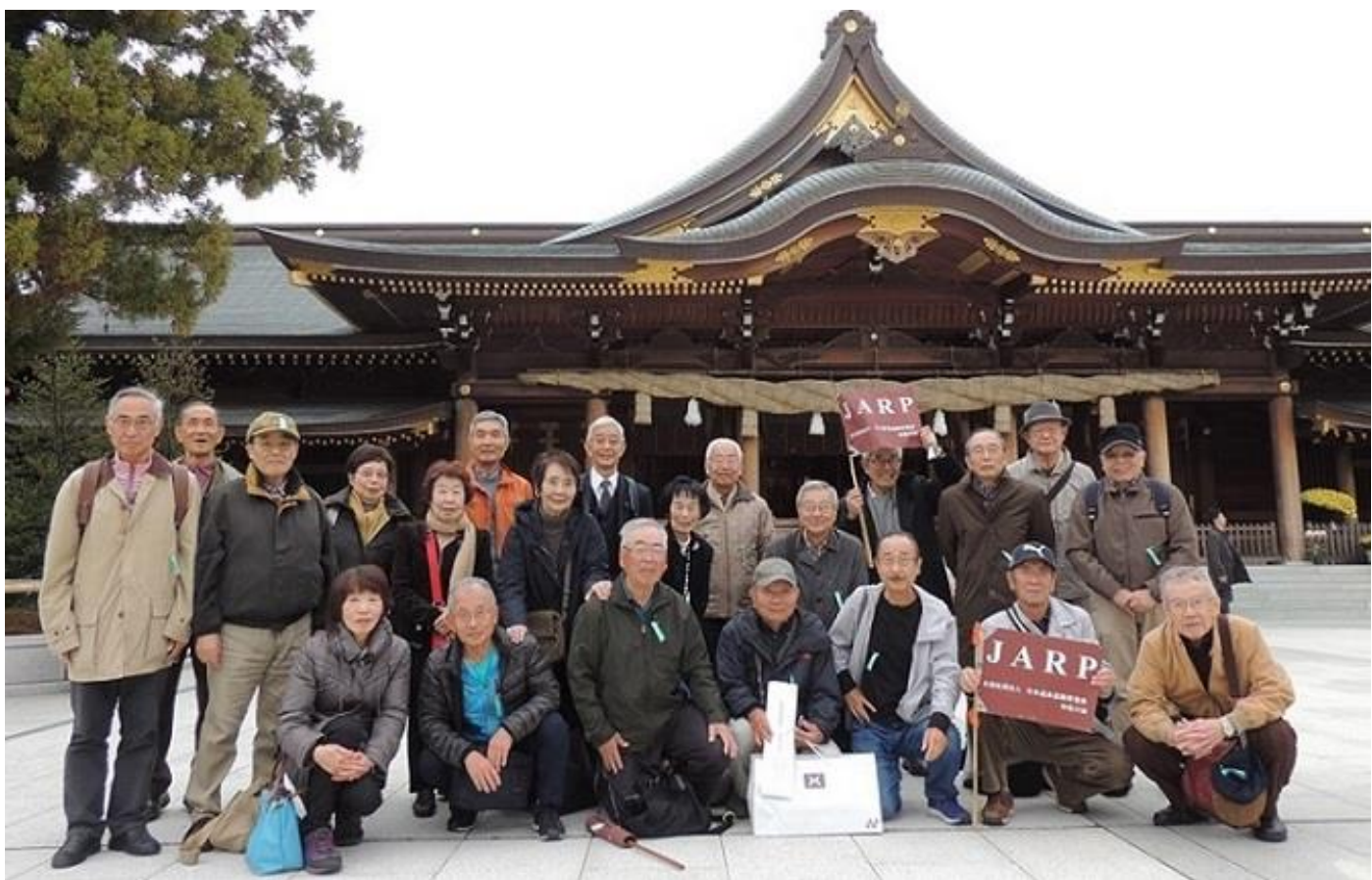
酒造蔵元的美膳ランチのご案内



晩秋の寒波の到来した冷え込んだ朝の11月22日、午前11時に相模線宮山駅に22名が集合しました。この天気に見学するのが寒川神社、なんとも楽しい取り合わせです。朝何を着ていくかで迷い、ボタン式の開閉ドアの電車と無人駅でのスイカの使い方で苦労して始まりでしたが、皆様元気に到着されました。会長の挨拶、幹事の行程案内の後、7～8分で寒川神社の第三鳥居の前に到着しました。



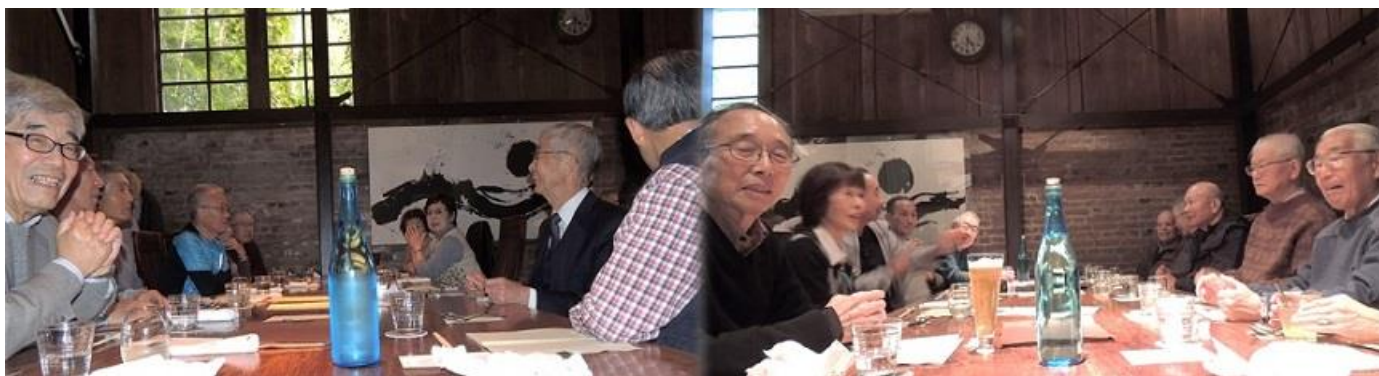
ここで神社参拝礼法に通曉した会員の蓮井さんより六礼三拝について話して頂く。礼をして鳥居をくぐり、左端を一列になって手水やまで行く、手水作法に則って身を清めた後に、客殿にて一同待機する。こんな寒い平日にも拘らず七五三詣でのご家族連れ多く、長い歴史のうちに培われた信仰の深さを感じられました。30分後に巫女さんの案内で白装束を着用し本殿に通された。総檜造りの内殿はあくまで高く豪快な作りの中に厳粛な威厳があり、正面には鏡が、左右に剣、長刀が鎮座してました。ご祈祷では会の名前が読み上げられ、『災いなく発展すること』が祈願され、その後一人一人が二礼二拍手一礼の礼により参拝した。その後本殿前で記念撮影、残念ながら神獄山神苑を見学する予定であったが、時間なく菊花展示を眺めながら駅に向かった。



寒川神社は相模国一之宮で1600年以上の歴史を有する明神大社である。平成10年に再建された本殿、神門は銅板葺、総木曾檜造りであり、長い参道は格式の高さが偲ばれました。律令の時代は信仰の中心でしたが、武家の時代に入ると中心は鎌倉に移った（鶴岡八幡宮も一之宮と称されますが、歴史では寒川神社に軍配は上がります）。



宮山駅から二つ目の香川駅で降り、徒歩10分。待望のランチを頂く湘南で唯一の蔵元、熊澤酒造の経営するレストラン天晴に到着。大正時代の酒蔵を改装したのでレンガの壁や天井が剥き出しの風情ある店内でした。蔵元料理は前菜、付出し、魚、肉のコース料理で和食がベースだが旬の野菜、魚を使ったイタリアン・テーストも交えた創作料理で大変美味しかった。特に一品一品の丁寧な手の込んだ作りには感心させられました。食事を堪能した後は、工場見学をさせて頂いた。日本酒の醸造と共に湘南ビールを製造するユニークな工場とビール酵母を生かしたパンの製造も併せて行っている。またレストランは実業家菅原通斎の常盤山文庫を移築したもので金澤の450年前の武家屋敷である。天上の梁や挿し肘木の組立の豪快さには圧倒され、またセンスの良さも感じました。



場見学後、会長の一本締めで解散、飲み足りない有志はカフェテラスで何杯かのアルコールを補充し、イベントの余韻に浸っていました。本日は雨の心配もしましたが、ほとんど降られず、行程は順調で参加者からは寒川神社の壮大さと本殿内で参拝できた経験は良い思い出であったとの声もありました、また蔵元料理のデリケートな美味しさも好評でした。

文章	中井 順一	
写真	榎原 勝	高山 友次
編集	高山 友次	